

# 子育て支援メッセいしかわ 2025 ～親子に笑顔の時間を～

団体名 ● 芥川ゼミナール、子育て支援メッセ実行委員会（事務局：（公財）いしかわ結婚・子育て支援財団内）  
代表者名 ● 芥川元喜（人間科学部こども学科・准教授）

## はじめに



芥川ゼミナール2年生と3年生が「子育て支援メッセいしかわ2025」（子育て支援メッセ実行委員会主催：11月16日（日））に企画をさせて頂いた。「子育て支

援メッセいしかわ」は7年続けて、7回目の参加をさせて頂いた。会場は、石川県産業展示館4号館である。

## 1. 企画・準備段階の活動



ゼミ生は、6月に、実行委員会の担当者、小倉優太さん、村上昌稔さん（公益財団法人いしかわ結婚・子

育て支援財団）から直接、開催の趣旨説明をお聞きし、自分たちで何が出来るかを考えるところから始まった。また、実行委員会の小倉さん、村上さんから学生の主体性を尊重し、学生を導いてくださったおかげで、学生たちはやる気になり、任されたブースに強い責任感を持って取り組みを始めた。

### (1)「ようこそ！親子にここに広場へ！」の企画

2年生では親子で笑顔になってもらえる企画を考えようと話し合いを重ね、「親子にここに広場」という名称ブースを企画、運営することとした。「親子にここに広場」では、「PON！PON！たこスナイパー」（的当て）、「親子でぴったんこ」（親子でイラスト当てゲーム）、「わくわくクレーンゲーム」（手作りクレー

ンゲーム）の3つのコーナーを企画し、遊びの道具は全て学生が手作りにすることにした。

### (2)「いしかわパパ子育て応援プロジェクト」の企画（3年生）

3年生は「いしかわパパ子育て応援プロジェクト」（家庭での男性の子育てや家事への参画を促進するため、石川県と（公財）いしかわ結婚・子育て支援財団が行うプロジェクト）の運営をお手伝いすることになり、当日の運営などを話し合った。開催日当日にブース担当の方からも直接助言を受けながら、参加する親子の安全を第一にした運営について話し合い、準備を行った。

### (3)ゼミナール全員の力で連携して取り組む

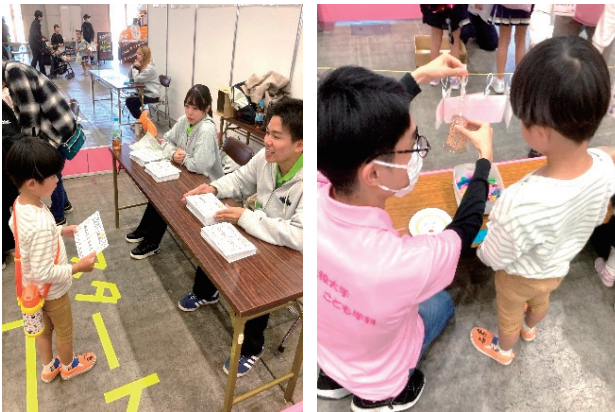


当日は安全にコーナーを運営するために、芥川ゼミ4年生5名も応援に加わり、運営することとした。その為、学生同士の事前の打ち合わせも入念に行った。こうした学年を越えて協働することもこの活動の大きな特徴の一つであり、ゼミナールの特色としている。（写真：学生が手作りした制作物）

## 2. 開催当日の活動

### (1)「親子にここに広場」の運営（2年生）

産業展示館4号館前には開場前から、多くの親子が行列をつくり、活気にあふれていた。開場とともにコーナーに走ってきてくれた親子もいて、開場から間もなく、満員になった。学生が手作りした遊びコーナーで、参加した子どもたちは楽しそうに遊ぶことができていた。



(2)「いしかわパパ子育て応援プロジェクト」の活動  
(3年生)



3年生5名の学生たちは行列の整理、それぞれの担当場所で活動を行った。ブースでは「育児・家事シェアシート」の体験や、子どもが遊んでお菓子がもらえる「輪投げコーナー」を運営し、多くのご家族が参加して下さり、楽しんでくださっていた。学生は、親子で安全に楽しめるように声かけや支援を行っていた。

### 3. 成果、結果の考察



メッセは、最終的に、約10,000人の入場者であった。にこにこ広場も学生の受付集計によると、800人を

超える入場者となった。学生は企画の話し合い、準備で多くの時間を費やした。しかし、その取り組んだ分、達成感があった。学生の感想には、会場で「ありがとう」、「楽しかったよ」と保護者の方から直接、声を頂いたことが嬉しかった、とあった。こうした多くの親子との交流は学生にとってかけがえのない体験となった。また、本活動を通して学生は、子育て世代の思いに想像力を働かせながら、「自分たちに何ができるのか」を主体的に考え、ゼロから企画を立ち上げ、具現化する経験を積んだ。この過程は相手意識を持って活動を構想する力、状況に応じて判断・対応する力、仲間と協働しながら課題を解決する力等、教員を目指す学生にとって大切な資質を育む学びの機会となった。とりわけ、子どもや保護者と向き合う中で得た気づきは、今後の教育実践を構想する上での基盤となるものとなる。

最後に、この活動には実行委員会の方々のお力を借りた。学生の思いやねがいに寄り添って頂いた。こうした方々の温かい支えがあったことも学生たちの大きな励みとなった。感謝を申し上げたい。

